（９）県立中村中学校

学　校　長　　山﨑　源生
校内研究代表者　　中村　洋介

１．研究主題

「地域からの熱い思いに応え、高い志を持ち、中高一貫の６年間を熱く語れる魅力ある生徒の育成」
～生徒が思考を深め、自分の考えや思いを表現する発問・活動の研究～

２．主題設定の理由

本校生徒は、通学区域が広範囲で、多くの小学校から集まった集団である。素直で優しい生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っている。一方で、まわりとの人間関係を築くことを苦手としている生徒が増加傾向にあり、教育活動全体を通じて、なかまづくりを意図的・計画的に仕組む必要がある。

しかし、昨年度末からの新型コロナウィルス感染拡大予防対策に係って大幅な予定変更になり、構成的グループエンカウンターなどが十分にできず、臨機応変的になかまづくりに取り組むような状況になってしまった。

学習面では、全国学力・学習状況調査の結果より、国語、数学において、全国平均を上回っているものの（国語では＋９．４Ｐ、数学では＋１５．８Ｐ）、記述問題の正答率にはまだまだ改善の余地があり、目的や課題に応じて情報を活用し、論理的にまとめたり伝えたりする力の底上げをはかっていきたい。高知県学力定着状況調査においても同じ傾向が見られる。

本校の生徒の共通の課題として、深い思考ができても表現をすることに課題が見られる。そこで今年度は新たに導入された Chromebook を有効に活用する方法に重点を置いて研究を進め、生徒が様々な方法で表現することができるようにする力を身に付けることを目的とし、上記の主題を設定した。

３．研究の進め方と方法

本校は中高一貫教育校であるため、校内研究は中高合同で行っている部分が多い。また、研修計画も分掌を中心に立案し研究を進めている。中学校独自の会としては、中学校確認会とサポート委員会をそれぞれ月に１回、中学校校内研修日を定期的に設定している。時間の確保が十分とはいえないが、限られた時間の中で、中学校独自の様々な課題について研究している。

☆＜中高合同＞

中高合同校内研修

・進路指導部・・・進路、学習関係全般
・サポート部、生徒指導部・・・生徒の心のケア、人権教育、生徒指導関係全般
・研修部・・・・ピアチューターや課題研究、アクティブラーニング
・総務部・・・・防災関係全般
・教科部会・・・週１回の中高合同教科部会

☆＜中学校独自＞

・中学確認会・・・月１回
・中学サポート委員会・・・月１回
・中学校校内研修・Chromebook 用いた、教科の特色に沿った取り組み。
・資質・能力ベイスの授業づくりを目指し、授業改善プランでの公開授業のレポートを共有

→相互参観授業で共有した視点を活かし、授業改善に繋げていく。
・Chromebook に関しての研修や実践交流を月１回のペースで行う

４．取組

☆中学校、高校合同の取り組み

＜進路指導部・・学力向上のための組織的な取り組み＞

①毎週月曜日実施の確認テスト

国語・数学・英語の順に毎週実施（不合格者は再テスト）

②家庭学習時間調査　（年３回実施）

生徒の家庭での学習の状況を定期的に把握し、日々の指導に生かす。また、保護者への啓発と協力の要請に活用する。

③高校教員との異教科間の相互授業参観

校種と教科を超えた相互授業参観を実施し、相互に評価し合う。高校での授業の様子を見ることができると同時に、県中卒業生の成長を知ることができる。

参観の視点は以下の６点

1　学習の目標（めあて）を明確に示し、生徒と共有できている。
2　意欲的に授業に取り組もうとする生徒の姿がある。
3　生徒の興味や知的関心を引き出す発問・指示ができている。
4　授業のねらいに応じた学習形態（ペアやグループなど）の工夫ができている。
5　生徒が他の生徒と協調・協力して活動する場面を設定できている。
6　何ができるようになったかを、生徒が振り返る場面を設定できている。

④夏季補習

加力の必要な生徒に焦点を当てた補充学習を実施する。

⑤学力検討会

学期に１回実施。教科部会で分析したのち、全教職員で共有する。
協議を通して、学力の現状と課題を把握し、実現可能な新たな数値目標や取り組みを設定する。

＜教科部会＞

・中高連携教科部会の充実

週１回の教科部会を時間割の中に組み入れて、中高の連携と授業形態の系統性を確認する。

＜サポート部＞

・Ｑ－Ｕアンケート（年２回）と学校生活アンケート（年５回）の実施と実施後の迅速なアンケート集計とその対応

学校生活アンケート実施日に即日集計し、その日のうちに気になる生徒に面談等の実施。

・いじめ検討委員会（随時）の開催

＜研修部＞

・中高６年間を見通したキャリアプラン、「総合的な学習の時間」の見直し
・ピアチューター

中学１年生と高校生との異校種間交流

☆中学校独自の取り組み

・サポート委員会（月１回）サポートの必要な生徒の情報共有と支援の在り方を考える。
・中学校確認会
・生活日誌の点検とコメント記入の徹底

・毎日の宿題とその点検
・専門委員会の充実
　専門委員会を月に１回設定している。翌月の専門委員会までに、活動日を１～２回設け各委員会の自主的な活動を通して、委員会活動の活性化を図る。
・道徳や総合的な学習の時間の計画見直し
　総合的な学習の時間については、中学校の３年間、さらに高校３年間を含む６年間を見据えた「探究学習」の推進。
・各種研修
　６月２８日　タブレット端末を活用した授業づくり　西部教育事務所　岸本指導主事
　９月２４日　総合的な学習の時間における探究課題　西部教育事務所　小谷野指導主事
　１０月１４日　校内研修（生徒理解について）
　１１月３０日　新学習指導要領における学習評価　西部教育事務所　岡田指導主事
　１月２８日　校内研修（道徳）
・Chromebook を用いた各教科の取り組み
　１　定期テストの実施・プレゼンスライド（英語）
　２　レポート作成（理科）
　３　資料活用（社会）
　４　ジャムボードを用いた意見交換・意思表示（道徳）
　５　関数アプリ・グラフ作成（数学）
　６　授業での活用（技術）

５．今年度の成果と課題

☆家庭学習時間調査（１１月）
　平日の家庭学習時間
　　１年　７３分（昨年）⇒８１分（今年１１月）、　　２年　６５分　⇒　５６分
　　３年　６６分 ⇒　５３分

＜成果＞
○アンケート結果より、「学校生活に満足している」、「目標を持った学校生活を送っている」と感じている生徒の割合が、今年度も９０％を超えている。
○アンケート結果より、「分かりやすい授業が多い」、「教材や教え方を工夫している教職員が多い」と回答する生徒が９０％近くになっている。
○生徒の心の状態をみとるタイミングの迅速化が図れた。
○中高異教科間の相互授業参観により、それぞれの良さを自分の授業に還元することができた。
○Chromebook を用いた研修や教科間交流を推進することができた。

＜課題＞
●家庭学習時間が年々減少傾向にある。（学年が上がるごとに少なくなっている。）
●主体的に学ぶ意欲のある生徒とそうでない生徒の格差が開いている。さらなる学習基盤づくりやキャリア学習の充実が必要である。
●各種の会が多く、中学校独自の校内研修の時間の確保が難しい。
　→来年度は時間を確保する取り組みをしていく。
●高校教員との異教科間の相互授業参観は実施しているが、中学校独自の合同授業研の時間確保が難しく、中学校校内研修としての授業研ができていない。

以上の成果と課題を踏まえ、中高連携のもと校内研修体制を構築していきたいと考えている。